Q 砲台グリーンへのアプローチショットを成功させる方法

米田様、いつも大変お世話様になっております。
今、アプローチに悩んでおります。特に砲台グリーンエッジからのアプローチが、柔らかく打てずに強く打ってしまいます。結果としてカップをオーバーすることが多いです。原因がクラブの長さを短く持ち過ぎることが原因なのかどうか具体的にお教えお願い致します。

A

砲台グリーンへのアプローチショットは、グリーン面に届くキャリーの距離が必要となり、グリーン上で止まる球が理想なので、難易度の高いアプローチショットと言えます。 つまり、距離感をつかむのがとても難しいアプローチショットなのです。ご質問者の方は、カップをオーバーすることが多いとのことですが、グリーン面に落とすキャリーの距離が大きいのかもしれません。

砲台グリーンでは、ショートすることを恐れ、つい強く打ってしまいキャリーの距離が大きくなりがちです。 また、クラブを短く持っていること自体は問題ありませんが、“極端に短く”握るのはおすすめできません。 短く握ることでクラブの動きは安定しますが、振っても飛距離が出にくいと思って自然と大きなスウィングをしてしまい、思った以上に飛距離が出る時もあるのです。 そうならないためにも、グリップの範囲で短く握るようにしましょう。

グリップを短く持ち過ぎると大きくスウィングして思った以上に飛距離が出てしまう可能性があるので、適度な短さでグリップを握るようにしよう

Copyright © Consumer's Happy. All Rights Reserved.
掲載の情報・画像など、全てのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

さらに、グリーンまで何ヤード必要なのかを歩測などして、最低この距離だけは必要だという数字を把握しておきましょう。そして、球が自然と上がるアプローチウェッジやサンドウェッジなどを使用し、無理に上げようとするより、何ヤード打つのかに集中しましょう。また、よく行くコースが決まっているのならば、グリーンの速さや硬さを考慮し、グリーンにのってからのカップまでの転がりなどが普通のアプローチショットのイメージでどれぐらいなのかを把握し、最終的に打つべき距離を決めるとよいでしょう。なお、基本的な距離感として、普段から5～30ヤードぐらいまでを打ち分ける練習をしておくと有利です。

Copyright © Consumer's Happy. All Rights Reserved.
掲載の情報・画像など、全てのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。